

ランキング満載 | 訪日客は何を買う? どこへ行く?

明治28年11月14日第3種郵便物認可
第6876号 2019年9月7日発行
毎週土曜日発行(9月2日発売)
ISSN0918-5755

Weekly
Toyo Keizai

週刊 東洋経済

2019
9/7
定価 710円

爆熱

観光

徹底解明! 「インバウンド」最前線

立国

| キーマン対談 |

菅義偉 × デービッド・アトキンソン

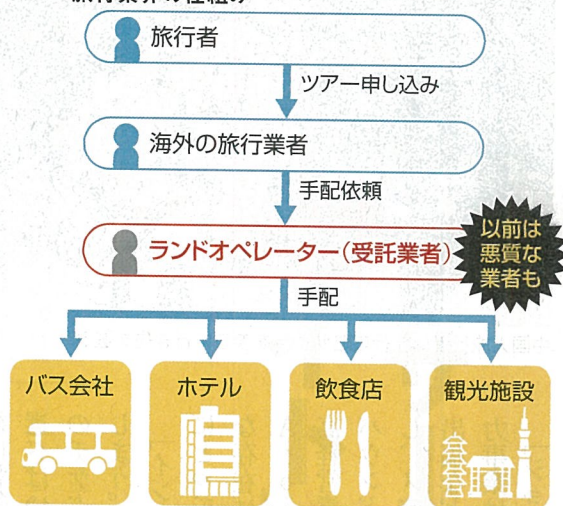
「統合リゾートとスキー場が今後のカギだ」



祖国の訪日客増で急拡大 中国人がホテルを買う事情

中国人観光客ならではの要望を理解している点が強みだ。

■ 悪質なランドオペレーターが不満の種に — 旅行業界の仕組み —



富

士五湖の1つ、山中湖のほとりに林に囲まれた建物が。施設名の表示は外壁になく、一見するとマンションのようだ。夕刻になると約40人乗りの大型バスが次々と横付けしていく。バスから降りてくるのは中国人観光客ばかり。「今日も楽しかった」と笑いながら、大きなスーツケースやバッグを持って施設内に入った。

中国人団体客が宿泊する「富士山ガーデンホテル」を保有するのは、日本全国に約10ものホテルやリゾート、ゴルフ場を抱え、バス会社も持つCHIグループだ。同グループを率いる露崎強会長は、1987年に事業を立ち上げた華人の実業家。中国人観光客が増加

するのを見越し、2000年代から首都圏や関西、九州で既存の宿泊施設の買収や建物のリノベーションを繰り返し、グループ傘下のホテルを増やしていった。山中湖で中国人の団体観光客が絶え間なく泊まりにくる富士山ガーデンホテルもその1つだ。

CHIグループのよ

うに中国人がホテルなどを買収して、インバウンド需要を取り込む例が増えている。富士山周辺のホテルで結成する業界団体のある関係者は、「中国人が次々と宿泊施設を買収して、中国人客を呼び寄せている」と実情を明かす。後継者がいない旅館や、経営が立ちゆかなくなったホテルを中国資本が買収。中国人客の誘致で事業を成り立たせているという。

実際、中国人が経営するホテルは増えている。ホテルや旅館の経営コンサルタントで、M&Aの仲介も手がけるホテル旅館経営研究所の辻右資所長は、同社が取り扱う案件でも「中国人による買収は前年比で30%増えている。中国・香港資本による買収が全体の7割

を占めている」と話す。日本の不動産価格は上海や香港と比べて安く、オリンピック開催の影響で宿泊需要が増加するとの見立てでも、買収増加の背景にあるという指摘もある。

中国人経営者という強みを生かし、祖国からの旅行者の好み、要望を理解し満足度を高めている点がCHIグループの特徴だ。狭い客室を好まない中国人が多いことから、富士山ガーデンホテルではあえて大きなスイートルームを設けず、その分でスペースを確保し、すべての客室を40平方メートル以上としている。12年にオープンした同グループの長崎ホテルマリンワールDの客室もすべて30平方メートル以上としており、20平方メートル程度の客室が多い日本のホテルとは異なる設計となっている。

同グループでは、日本で一般的なシングルベッドの横幅よりも約20センチ大きくしたものを用意している。日本の老舗旅館などでは、温泉の入り方や寝具の大きさなどのミスマッチが、中国人宿泊客にとって問題になることもある。CHIグループのホテルに宿泊客をあっせんしたことがある旅行会社は、「中国人のニーズをくみ取った設計がなされているので、苦情が少ない」という。